



地域と医療のコラボレーション

ハーモニー

Harmony ♪

第26号

2013 / September

発行 / 医療法人社団協友会 東大宮総合病院

編集 / 広報委員会

〒337-0051 さいたま市見沼区東大宮 5-18

TEL 048-684-7111 FAX 048-686-3614

<http://www.higashiomiya.or.jp/>

特集

第一回院内学会開催

副院長 梅本 淳

平成25年6月1日、当院で初めての院内学会が開催されました。当院は現在、常勤医師数が59名と5、6年前に比べ倍増し、また質的にも医療の専門化、高度化に対応した医師が一層増えてきました。さらに平成27年春には病院が新築移転し、より高度な医療を提供できる施設に生まれ変わります。当院で働く医師にとって、このような病院のめまぐるしい変化に対応するには、各診療科の医師達が相互に診療内容を把握し理解を深め、信頼協力関係を構築することが必要です。今回、当院で初めての院内学会を開催したのはまさにこのことを目的としたものでした。

当日は土曜日で、勤務日外であった医師も多かったのですが、どうしても都合のつかない医師を除き85%の医局員が参加しました。発表は各科代表者1名が通常の学会形式で質疑応答を含め1人10分間とし計10名が行いました。発表演題に加え最後の1枚のスライドでその科の診療内容のアピールもしていただきました。発表はバラエティに富んだ内容で感心させられるところも多々あり議論も活発に行われました。参加者全員が発表者の採点を行い最後に集計して優秀な発表を行った3名が表彰され幕を閉じました。

開催を通じて感じたことは、医師が中心となって企画した今回の院内学会のような試みが病院全体のレベルを向上させ、近隣の診療所や病院の先生方、そして患者様からの信頼を勝ちえることにつながるのだということ、また医師全員が病院を良くしていくということ、また医師が共通の目的意識を産むことになるのだということです。院内学会は今後、病院の重要行事のひとつとして年2回開催することになりました。また、これと同時に研修医の行うランチョンセミナーや指導医、上級医のモーニングレクチャー、科を越えてがん患者の治療を話し合うカンサードの開催も始まり、当院医師が相互に協力して医療レベルを高め合おうという意識が芽生えてきています。



診療科だより

乳腺外科



乳腺外科
部長 奥山伸男

当院で乳腺疾患は、私と金直美医師が担当しています。診療内容は乳癌に関連する事が主なことで、乳癌の診断、治療（術前治療、手術、術後治療）、術後管理です。他に乳房の良性疾患、癌以外の悪性腫瘍（肉腫）もあついています。

増加する乳がん患者

乳癌は近年日本でも多くなっています。乳がん罹患率（りかんりつ）は、今や18人に1人が乳癌になり、年々増加傾向で、女性がかかりやすい癌の第1位です。乳癌は30代から急増し、40〜50歳代の女性に特に多くみられます。その後ゆるやかに減少しつつも80代まで高い確率であり、油断ができません。

10年後の生存率

乳癌も早期発見が極めて大事で、予後に関連し、手術方法の選択にもかかわります。

乳癌の進行の程度を示す病期があり、腫瘍径（T0、T1〜4）、リンパ節の転移の程度（N0〜N3）、遠隔転移の有無（無しM0、有りM1）の組み合わせで、0期（非浸潤癌）、1期、2期、3期、4期に分けます（表1）。病期が上がるごとに予後は悪くなります。

例えば10年生存率は、癌細胞が周囲組織へ広がっていない非浸潤癌の0期で95%程、腫瘍径が2cm以下でリンパ節転移していない1期が90%程、他臓器への転移がある4期では20%程です。

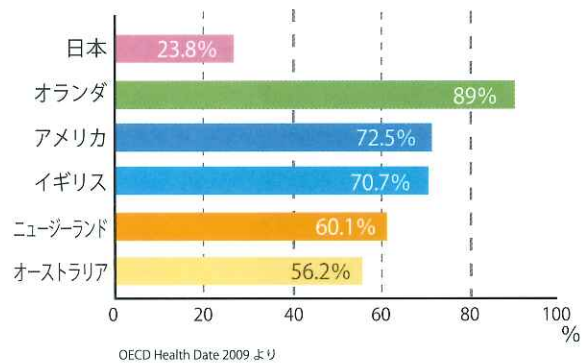
（表1）乳がんの病期（ステージ）

リンパ節転移			T0 原発腫瘍が不明	T1 大きさ 2cm以下	T2 大きさ 2〜5cm	T3 大きさ 5cm以上	T4 大きさによらず 胸壁、皮膚に浸潤
なし	N0	M0	×	1期	2A期	2B期	3B期
脇の下(動く)	N1	遠くの臓器に転移なし	2A期		2B期		
脇の下(固定) または 胸の内側	N2		3A期				
鎖骨の上下 胸の内側 脇の下	N3		3C期				
M1	遠くの臓器に転移		4期				

☒ 該当せず、病期0 非浸潤癌

日本の乳がん検診率

各国のマンモグラフィー検診受診率（50〜69歳）



それでは早期に乳癌を発見するには、どうしたらよいのでしょうか。

乳癌は体表にあり、自分で見る事も触る事もできます。全ての乳癌というわけではありませんが、大部分の乳癌は自己検診などで自分で発見できます。大事なのは乳癌検診を定期的に行う事です。市町村から住民健診通知や検査の補助など、検診を受けやすい環境が整っています。

しかしながら、日本のマンモグラフィによる乳癌検診受診率は、23.8%と高くありません。オランダ89%、アメリカ72.5%、イギリス70.7%、ニュージーランド60.1%、オーストラリア56.2%と比較しても、日本の検診率は低いのです。

10月はピンクリボン月間です。当院でも20日の日曜日に乳がん検診を行います。これを機に、検診を受けてみてはいかがでしょうか。

より良い病院を目指して

■□■ 胃外科手術の担当医 ■□■

当院には現在、3名の内視鏡手術技術認定医がいます。なかでも、5月に入职した外科の木山医師は腹腔鏡下胃切除で技術認定を受け、これまでに日本医科大学で400例の腹腔鏡下胃切除を行ってきました。セカンドオピニオンなど胃がんについて、お気軽にご相談ください。



外科
部長 木山 輝郎

日本胃癌学会評議員
消化器病外科専門医
消化器病専門医

外来診療：月曜 午後
金曜 午前・夕方

■□■ 救急科の新設 ■□■

当院は入院治療や手術を必要とする重症患者様に対応する「二次救急指定病院」です。8月より、日本救急医学会救急科専門医を招聘し、救急科を新設しました。救急診療は各診療科との密な連携をとり、救急受入れを断らない救急医療を実現するために取り組んで参ります。



救急科
医長 岩田 健司

麻酔科専門医
救急科専門医

受けてみませんか？乳がん検診

今まで乳がん検査に行ったことがない方、最近忙しくて行っていない方等、日曜日に受診出来るこの機会に「乳がん検診」を受けてみませんか・・・？

10月は乳がん月間です

J.M.S（ジャパン・マンモグラフィ・サンデー）は子育て・介護・仕事・家事などで忙しく、平日に病院に行けない女性の皆様が、休日の日曜日に「乳がん検診」を受けられるよう、全国の医療機関とNPO法人J.POSHが協力して毎年10月第3日曜日に乳がん検診マンモグラフィ検査を受診できる環境づくりへの取り組みです。

今年は **10月20日日曜日**

完全予約制ですので、お申し込みはこちらから

予約・受診受付時間：9時～17時

東大宮総合病院 健康管理課 TEL 048-684-2278

※おかけ間違いのないようご注意ください

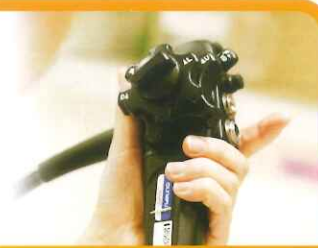
乳がん検診の最大のメリット 「早期発見での小さながんは 命を脅かすことはありません」

乳がん検診で期待できる最大のメリットは、早期発見で見つかる小さな乳がんはほとんど命を脅かすことはありません。早期発見なら乳房を温存するなど、自分の希望する手術法や治療法を医師と相談して選択できます。また、入院期間や再発防止の治療期間なども短いので経済的負担も軽くすみます。今までと同じようなライフスタイルを続けることが期待できます。

乳がんが「見つかること」が怖いことではなく、「知らないまま」でいることが怖いことなのです。あなた自身の身体と生活を守り、あなたを愛する人たちを悲しませないために、「自分でできること」と「ちょっと勇気があればできること」を知り、乳がん検診を是非受けましょう。

当院は日本乳癌学会関連施設です

検診での胃内視鏡検査が 受診しやすくなりました



当院では、今年度より人間ドックや検診で要望の多い内視鏡検査の充実をはかるため、内視鏡室を拡大し3室体制で実施しております。そのため、現在では1日約10名様の検査（検診枠）を行えるようになり、昨年と比較して大幅に検査待ち日数を改善することができました。

胃がんは、全国推計値の罹患数でも常に上位であり、定期的な内視鏡検査が欠かせません。今後も地域の皆様のニーズに少しでも貢献できるよう、対応して参りますので、引き続きよろしく願い申し上げます。

当院はさいたま市特定健康診査 がん検診ができる医療機関です

●実施期間

平成25年4月30日～平成26年3月8日

●受付時間（胃内視鏡検査は午前のみとなります）

	月	火	水	木	金	土
9:00～11:00	●	●	●	●	●	●
14:00～16:00	●	●	●	●	●	

（土曜日午後、日曜祝日は休み）

詳しくは、健康管理課までお問い合わせください。

Tel 048-684-2278

回復期リハビリテーション病棟 閉鎖のお知らせ

当院では、地域医療のニーズに沿って平成18年7月より約7年間、回復期リハビリテーション病棟を運営してきました。しかし、地域基幹病院としての役割を果たすべく、一般急性期患者様受入に支障をきたさないためにはと検討を重ねた末、8月末をもって回復期リハビリテーション病棟を一般病棟（急性期）へと変更することになりました。

今後は救急受入と併せ、緩和ケアの患者様の積極的な受入も行い、地域基幹病院として恥じないよう、職員一同、頑張る所存ですのでこれからもよろしくお願い申し上げます。

当院の 数字アラカルト

外来患者数	672.2人/日
入院患者数	275.2人/日
在院日数	15.1日
ベッド稼働率	86.4%
救急件数	323.3件/月
手術件数（全麻・腰麻）	98.3件/月
心臓カテーテル検査件数	35.0件/月
内視鏡件数	754.5件/月

平成25年4～7月平均

編集後記

今年度の病院目標である救急科の新設、内視鏡室の増室、全病床一般化（急性期）に続き、電子カルテ導入の準備を進めています。来年2月より稼働予定です。平成27年の新病院移転へ向け、院内の体制を着実に整えています。



東大宮総合病院

〒337-0051 さいたま市見沼区東大宮5-18
TEL 048-684-7111 FAX 048-686-3614

医療法人社団協友会



JR宇都宮線「東大宮」駅下車
東口より徒歩3分